

榮光

『キリストの涙』

ヨハネによる福音書11章28節～37節

東洋英和女学院中学部・高等部教諭 上野峻一

「イエスは涙を流された」。35節の御言葉です。この一節に、どれだけ多くの人たちが心を惹かれ、頭を悩ませたでしょう。主イエスもまた、私たち人間と同じよう涙を流されたのです。あるいは反対に、キリストは神の子であるにも関わらず涙を流すのかと、この一節の意味を問いかれます。

しかし、ヨハネ福音書は、主イエス・キリストが流された涙の意味を、その詳細を記すことはしません。ただ事実として、その出来事を記述します。キリストは、確かに涙を流された。それも、この言葉は涙が目から一粒流れたというようなものではなく、主イエスの両目に涙が溢れ頬を伝ったという意味合いです。涙を流すというは、とても印象深い出来事のよう

に思います。人が泣くというのは、その理由がどのようなものであつたとしても、周囲の人々も自分自身も、何か特別な記憶として残ります。実際イエスさまが涙を流されたということは、人々の記憶に刻まれました。理由は明確ではないにしても、このように聖書に記され、今まで語り継がれています。理由が明確ではないからこそ、かえつて真実味があるのかもしれません。理由のない涙、理由がわからないからこそ、そこに真理があると考えられます。

愛する家族を失ったマリアは、深い失意の底にあったことがわかります。マルタは家に帰つてマリアを呼び、「先生がいらして、あなたをお呼びです」と耳打ちします。こつそりと、小さな声でマリ

に思います。人が泣くというのは、その理由がどのようなものであつたとしても、周囲の人々も自分自身も、何か特別な記憶として残ります。実際イエスさまが涙を流されたということは、人々の記憶に刻まれました。理由は明確ではないにしても、このように聖書に記され、今まで語り継がれています。理由が明確ではないからこそ、かえつて真実味があるのかもしれません。理由のない涙、理由がわからないからこそ、そこに真理があると考えられます。

マリアは主イエスのおられる所に来て、イエスさまを見るなり足元にひれ伏して「主よ、もしここにいてくださいましたら、私の兄弟は死ななかつたでしよう」と言います。マリアはイエスさまに對して、まさに怒りや不感、敵意やうらみをぶつけていたようにも見えます。「なぜ、どうして」と、イエスさまならお癒しになられたはずなのにと、本当に深く信じていたからこそ、足元にひれ伏しながら、彼女の激しい感情を表していただと見えます。33節「イエスは、彼女が泣き、一緒に来たユダヤ人たちも泣いているのを見て、憤り

説教・「キリストの涙」 上野峻一教師…1
特集・旧約聖書のことば…2
説教・「何に目を留めるか」 岸俊彦牧師…5
須田則子先生との懇談会報告…6
上野峻一先生との懇談会報告…6
臨時教会総会報告…7
長老のファイル…7
牧師の書斎から…8

アに伝えたのです。他に大勢いる人たちに聞こえないかのようにマリアだけに伝えました。マリアは、その言葉を聞くと、すぐに主イエスのもとに行きます。「イエスさまがいらして、あなたを呼んでいる」。実は「いらして」と翻訳された言葉は「傍らにいる」という意味です。単純に「来た」という表現ではなくて、「傍らにいる・そばにいる」という言葉を使っています。そして、「あなたを呼んでいる」というのです。

ラザロの死の現実を前にして、主は涙を流されたのです。けれども、マリアやユダヤ人たちと決定的に違うものがあります。それが、主イエス・キリストは、この死という、涙へと促す「根本原因」に勝利された方であるということです。それが、神の子であり、救い主・キリストです。主イエス・キリストは、十字架で死なれ、三日目によみがえられます。死んで葬られたラザロを呼び起こします。死は、キリストの前では、終わりではないのです。これからも、私たちちは死を前にして、涙を流す時があるはずです。しかし、私たちの傍らには主が共におられ、私たちちは主イエスのもとへと向かうのです。キリストが共に流してくださいとの扉を開きます。この方こそが私たちを罪から救い出し、死で終わらない確かな救いを与える方です。

旧約聖書のことば

旧約聖書は、天地創造から始まり、イスラエルの民と神の関係と歴史、預言書・詩編・神との約束が39巻にわたり記されています。多岐にわたる旧約聖書の中で、特にあなたが好きな言葉を教えてください。

主を畏れる

尾崎幸子

中高の校長室の前だったかに「主を畏れることは知識の初めなり（箴言1・7）」という額がかけられていた。まつたくもってミッションスクールにありがちな聖句の引用である（笑）それでもわが母校の理念だし：とも思っていたが、ほかのミッションスクールも軒並みこの聖句を理念としていると後で知つて笑った記憶がある。

その額を最初に目にした子どもたちの頃は、「旧約の神様は、雷を落としちやつたり、国を分断させたり、何か怒つていて怖いよね」ぐらいに思つていたものだ。日本では「ばちがあたる」という考えが結構浸透していて、神仏とか祟りとかを恐れがちだ。実際旧約の神様は結構怖いので、自分にもその感覚があつたのかもしれない。が、時を経て信仰に向き合うようになると、自然と「畏れる」の真意を考えるようになった気がする。

中高の校長室の前だったかに「主を畏れることは知識の初めなり（箴言1・7）」という額がかけられていた。まつたくもってミッションスクールにありがちな聖句の引用である（笑）それでもわが母校の理念だし：とも思つていたが、ほかのミッションスクールも軒並みこの聖句を理念としていると後で知つて笑った記憶がある。

その額を最初に目にした子どもたちの頃は、「旧約の神様は、雷を落としちやつたり、国を分断させたり、何か怒つていて怖いよね」ぐらいに思つていたものだ。日本では「ばちがあたる」という考えが結構浸透していて、神仏とか祟りとかを恐れがちだ。実際旧約の神様は結構怖いので、自分にもその感覚があつたのかもしれない。が、時を経て信仰に向き合うようになると、自然と「畏れる」の真意を考えるようになった気がする。

そもそも「畏れる」という言葉は、「物事を恐れてたじろぐこと」あるいは「偉大な存在に対し畏まつて敬うこと」を意味する。ということは、「主を畏れる」にはまず神が人知を超えた偉大な存在であると認める必要があることになる。神はモーセに「私はある」（新共同訳出エジプト3・14）と言われたが、「神を信じる」ではなく「神が在る」と知ること、これがまさに知識の初めということなのだろう。

人は、常に大小さまざま問題に直面し、それらを解決しながら生きている。何かの選択に迫られたとき正しい選択をするために必要なのが知識である。そして知識とは、神を畏れることから始まるのだから、自分の思いだけではなく畏れをもつて神に頼り、御心にかなつた選択をすればよい。……と、頭ではわかつてはいるがどうにも難しいし、自分で書いていながら耳が痛い。なので、戒めも救いも込めて最後にこの箇所を。「あなたのはすべき事を主にゆだねよ、たのなすべき事を主にゆだねよ、そうすれば、あなたの計るところは必ず成る」（口語訳箴言16・3）

好きな聖句 詩編23編 「くくレトの言葉3章

い」。造り、永遠を人の心に与えた。だが、神の行つた業を人は初めから終わりまで見極めることはできなか

中西 泉

た。5月の日曜日、岸先生手書きの、誕生日カードをとてもうれしく頂きました。八三(うみ)の時

く頂きました。人生100年の時代とは言え、いつ何が起きても不思議ではない年齢です。大好きな詩編23編がますます身近に感じられるようになりました。「主は私の羊飼い 私は乏しいことがなれるようになります」から始まり、「命あるかぎりい」美しいメロディーが聴こえてくるような神様の恵みをうなづたつたこの箇所が一番好きです。

ナオミ会では時間をかけてヨブ記を学びました。ヨブは長い苦難の末に、自分の罪を悟り、悔い改めて神に向き合います。そこで神はヨブを顧み、以前にまして祝福してくださいました。

私の8年の人生は月並みではありません。あり谷あり、悲しみの時はコヘレ

53
この元へ帰して1年を過ぎていろいろこのとき、原稿依頼を頂きました。頭に浮かんだのは「コヘレトの言葉4章9節～12節」でした。

三 本の本を一本か無くなり、主と二人でこれから歩んでゆく。主は何も答えてはくれない。なんとう空しさ。

しかし 私の体を気遣つて机へ
くださる教友がいてくださる」と
とは力を与えられ感謝です。
寒い夜、並べて敷いた夜具から
手をつないで寝るだけでも寒さに
堪えることもできた。これも空へ
ことあるごとに自分の信仰を確
認するために、使徒信条、主の祈
りを口ずさむ。

妻温子は高柳商業専門学校卒業後、株式会社立命館にて就職し、結婚後も63歳まで勤務を続けていました。その後は再就職もせず、現在は長男が同居していますが、夫婦一人だけの生活に甘んじていました。礼拝出席、夜の祈祷会、夕食がてら居酒屋へ、また毎度の妻の病院通いも付き添つていました。

ことあることに自分の信仰を確認するために、使徒信条、主の祈りを口ずさむ。

妻を御国へ送つたのち、半年後
ほどで私の体に不調が出てきま
した。他愛ない夫婦間での痛い苦
いも心を開いて相談もできない
昨年夏に左の首筋と肩に痛みを感
じ整体院に通い始めました。しか

し回復の兆しが見えず、総合病院

一人より二人のほうが
幸せだ

で検査を受けて、動脈硬化が発見され1週間入院、ステント留置術を受けることになりました。

門田由紀子

「何事にも時があり天の下の出来事にはすべて定められた時がある」(新共同訳コヘレト3・1)

50歳を機に5年日記をつけ始めました。その日にあつた出来事や感じたこと、また読んだ本などを備忘録的に書きとめ、2冊目となつた今の日記はちょうど半分折り返しにきたところです。連用日記は毎年同じ日の記録が1ページに積み重なつしていくので、1年前の、また何年か前の自分と向き合つることができます。日々の振り返りの中で、何事にもふさわしい時が与えられていることに気づくようになつたことは、私にとって大きな意味を持つものとなっています。

子育てや介護、仕事、人生のその時々、不安や悲しみ、辛く思通りにいかない時、いつも最善の道を神様が用意してくださつていたことを知っています。すべてのわ

ざに時があり、あの時があり今があると思えるのです。そして、そこに家族、友、私を支えてくれた人がいたことを思い出します。「ひとりよりもふたりが良い。共に労苦すれば、その報いは良い。倒れれば、ひとりがその友を助け起こす」(新共同訳コヘレト4・9、10)。さらに、人生を空しく感じたり、労苦の中にあつても、幸せを見出すことができるようになります。日々の生活において、このことばを思い出すと、必要なものはすべて与えられる、自然に勇気に気づきます。

常に主が働いてくださり、共にいてくださることを、日記を通じ思い起こし、全ては御心に安心してお任せすればいいと思うのです。

ですから、日々を思い煩うことはせずに…とは思うのですが、私は弱く、悩まなくていいことまで悩んでしまう性格です。そんな私にできるのは、礼拝を守り、喜び、祈り、感謝して、困難の中でただけを畏れること。今日一日を精一杯生きることができます。私を導き、守つてくださる方が信仰を持ち続け、前に歩んでいくことだと思っています。

旧約聖書の中で私が好きなことば

中西尊司

旧約聖書の中で私が好きなことばの一つに、「主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない」があります。日々の生活において、このことばを思い出すと、必要なものはすべて与えられる、自然に勇気が出てくるような気がします。

数年前、私は新しい職場に転職しました。仕事には自信がありましたが、一般的には50代の転職はリスクが高いといわれるところ、私も会社のカルチャーややり方に慣れるのに苦労しました。入社後すぐに大きなプロジェクトを任せられたときは、楽しみとともに大きな不安やプレッシンジャーを感じました。そんな時、このことばを思い出しました。短いですが心に深く響くことばです。

日々の小さな成功に対して感謝の気持ちを持つようになります。感謝の気持ちちはチームみんなの気持ちをポジティブにしたと思います。

この経験を通じて、この詩編23編のことばは実際の生活において力強い支えになることを実感しました。このエピソードは、今でも私が困難に直面するたびに思い出しつつ、心の支えとしています。

のことばを思うとき、不安な気持ちは和らぎ、良い方向に導かれていくと信じることができます。実際の仕事にあてはめると次のようなプラスの変化があつたと思います。

①チームワークの強化

自分一人ですべてを行わなければならぬというプレッシャーから解放され皆の意見や助けを素直に受け入れることができ、全体の連携が強くなりました。

②冷静な対応

予期せぬ問題が起きたときも、このことばを思い出すことで冷静に問題を分析し、解決策を見つけることができました。

③ポジティブな姿勢

日々の小さな成功に対する感謝の気持ちを持つようになります。感謝の気持ちちはチームみんなの気持ちをポジティブにしたと思います。

説教

レビ記19章17節～18節

ヤコブの手紙2章1節～13節

岸俊彦

『何に目を留めるか』

「私たちの主、栄光のイエス・キリスト」（ヤコブ2・1）。

この言葉に礼拝とは何かが語られています。私たちは礼拝で主イエス・キリストを賛美します。主に栄光を帰します。目には見えない方を望み、祈り、共に御言葉に聞き従います。そして、それぞれの場に遭わされます。礼拝者として御言葉に聞き従つて、忍耐強く歩みます。信仰によって、この世の務めを果たすために御言葉によつて支えられ、強められ、聖霊によつて導かれます。この世には誘惑があり、試みがあります。私たちには欲望があります。試みや誘惑が、私たちの欲望に働きかけ、欲望がはらんで罪を生み、罪が熟して死を生みます。礼拝者として御言葉に聞き従い、信じて生きようとするのですが、この世にある限り、欲望や、試みと誘惑によって、礼拝者である私たちは、主か

ら引き離され、神の意思を示す御言葉に、正直なところ、服従して生きることができません。そのため、繰り返し礼拝に招かれ、私たちの主、栄光のイエス・キリストへの信仰に立ち帰るのです。主をほめたたえつつ、悔い改めます。七転び八起きです（箴言24・16）。

この世にあって、誘惑と試みに負けても、また立ち上がるためです。私たちが礼拝する主イエス・キリストは、その苦難と死、復活と昇天の生涯によつて、私たちに十二分に恵みを注いでくださっています。キリストの恵みによつて私たちは主を信じ、告白し、礼拝する者にしていただいています。何と幸いなことでしよう。

神の言葉に聞き従えない罪人である私たちでありましても（ローマ3・10）、世の屑、あらゆるもの、の滓とされてしましても（コリント4・13）、たとえ虫けらの

22・7）、宝の民（申7・6）、イエス・キリストのもの、神に愛され、聖なる者としていただいています。この主の恵みを思い起こし、感謝し、その恵みのもとに生かされる礼拝者として、その自覚を新たにするために、私たちはこうして集められ、礼拝しています。

礼拝する私たちは、「神は人を分け隔てなさない」（ローマ2・11、ガラテヤ2・6）ことがよく分かるのです。私たちを含め、礼拝に集められた様々な人を見れば分かることです。

それにもかかわらず、教会の中に壁がありました。ヤコブの教会では、金持ちと貧しい者の壁です。礼拝のために自宅を提供し、教会を経済的に支えていた裕福な者がいました。彼のお仲間が礼拝に出席すれば、そのお仲間を特別扱いしました。他の教会員たちも同様でした。貧しい者が出席すれば、「地べたに座つていたら」と素つ氣も何もありません。礼拝者が一體全体何を見ているのでしょうか。

「分け隔てをする」というギリシャ語の元々の意味は「顔を見る」です。誰の顔を見て、誰の顔色をうかがつているのでしょうか。「目を留める」とは、よくよく注意して見ることです。顧みるという意味もあります。仲間の金持ちを顧みるのでしょうか。私たちは、こんな漫画のような極端な分け隔てをすることはないでしょう。分け隔てすることのない神を信じ、礼拝しているのですから。そこひいきが良くないことだとわかっているのです。しかし、それにもかかわらず、私たちは、本当のところ、何を見つめているのでしょうか。損得、自分の欲望、人の思い、人のまなざし…。

礼拝は、「私たちが見えるものではなく、見えないものに目を注ぐ」（Ⅱコリント4・18）ためにあります。偏り見ることのない神が、私たち一人ひとりにまなざしを注いでくださつていていることに気付くためになります。

キリストの体である教会が、二つに割れることは本来あつてはならないことです。富める者も、貧しい者も、主にある兄弟姉妹です。キリストを頭とする、キリストの体である教会に繋がる肢です。

須田則子先生との懇談会報告

岸先生の在任最後となる今年度は、当教会に縁のある先生を説教者としてお招きしています。5月5日は須田則子先生をお招きし、「義」と題した説教の後で懇談会を持ちました。

須田先生は1990年に当教会で受洗、その後献身を決意し、1997年に東京神学大学博士課程前期を修了。鎌倉雪ノ下教会、阿佐ヶ谷教会での働きを経て、2003年より恵泉女学園中学・高等学校の教諭を務め、千歳船橋教会の協力牧師であります。

須田先生は、私の勤務する金融機関のかつての先輩で、仕事では厳しいけれど、終業後はよく一緒に美味しいものを食べながら映画や小説の話をしていました。その後退職して世界各地を巡る旅に出ることにされて、周りはとても心配しました。須田先生はその旅で様々な出会いや危険な目にも遭い、救われた自分に「なぜ自分なのだろう」と考えた末に神様の存在を強く感じられたそうです。今では教師として聖書について教えてい

きました。

須田先生は、私の勤務する金融機関のかつての先輩で、仕事では厳しいけれど、終業後はよく一緒に美味しいものを食べながら映画や小説の話をしていました。その後退職して世界各地を巡る旅に出ることにされて、周りはとても心配しました。須田先生はその旅で様々な出会いや危険な目にも遭い、救われた自分に「なぜ自分なのだろう」と考えた末に神様の存在を強く感じられたそうです。今では教師として聖書について教えてい

きました。

（酒井由紀子）

る姿に神様の恵みを感じます。

懇談会には恵泉女学園のOGの方が多く出席しました。須田先生はキリスト教文化の授業を担当し、生徒は興味を持つて授業を受ける人が多いそうです。恵泉は創立当初から「聖書」「国際」「園芸」を教育の柱としていますが、大学の募集停止により社会園芸学科がなくなりました。出席者からの園芸教育について危惧する質問に対し、「園芸は必修授業であり、ジャガイモや小麦の栽培、花壇用の苗作りなど行っているので安心してください」と回答がありました。

また、須田先生は鎌倉雪ノ下教会等で主任牧師の交代を経験されており、主任牧師交代時に留意する点を聞かると、「牧師交代後も礼拝出席者が減らない、活動が停滞しないことが大切」と話されました。教会員は牧師につながることではなく、一人ひとりがキリストにつながって主の教会を建てることが大切であり、教会員はつい新任と前任と比べることがあっても、それぞれの賜物の違いを知り教会を守っていくことが大切だと感じました。

（酒井由紀子）

上野峻一先生との懇談会報告

上野峻一先生を説教者としてお迎えした礼拝の後、懇談会の時を持つことができました。

先生の近況として、教務教師を勤めておられるミッショナリースクールでのご様子を伺いました。当教会の教会学校にも同校の生徒が通つており、みな明るく聰明で大人びています。ただ、学校では学生らしくはしゃぎ、のびのび過ごしているようではほつとしました。上野先生が生徒たちに懐かれている様子もよく伝わってきて、微笑ました。

若者伝道について伺うと、初等部で既にキリスト教に慣れ親しんでいる生徒が多く、既出の題材を扱う際は工夫が必要で、教師の力量が問われるとのことでした。確かに教会学校でも、キリスト教主義学校の初等部に通う子どもたちは、聖書の質問にも元気よく答えてくれます。CS教師にとつてはい始めてくれています。教会学校の役割を果たしたいものです。

懇談会では、牧師をお迎えするにあたつての心構え、今こそ伝道の時であることなどを伺え、示唆に富む内容でした。一を伺えば、十を返してくださるので、あつという間に時間が過ぎ、充実した懇談となりました。

（原 良介）

2、3人程度受洗者が与えられるようです。これを多いと取るか、少ないと取るかは人さまざまですが、私にとつては多く感じられ、励まされる数字でした。

当たり前ですが、学校でキリスト教の授業があつても授洗はできません。通常教会があつてはじめ学校が協力し、両輪となつて若者伝道を担っていくのです。そのため、学校と各教会のCSS教師との懇談会もあり、分団になつて意見交換を行います。上野先生が当教会の伝道師の時、二人で複数校を回りました。時が経ち、経堂北教会に在籍していた先生方が、教務教師として教会に子どもたちを送り出していくのは有難いことです。今年も新中学1年生が当教会に通い始めてくれています。教会学校の役割を果たしたいものです。

臨時教会総会報告

5月26日の主日礼拝後に行われた臨時教会総会は、64名の出席を得て成立しました。出席してくださった皆様、ありがとうございました。

今回の議題は、牧師館改修工事に関する件でした。今まで折に触れ、岸牧師からも礼拝堂の建替えの際には容積率の関係から同規模の会堂は立てられない、という話がされていました。今回の牧師館の建替えについても容積率の関係から新築はできず、改修という形で容積率の問題に抵触しない形での工事の提案となりました。

提案に対して、耐震性のことや、基礎をしっかりと直すのか、ま

た、今回の改修プランは松谷祐二先生は了承しているのかなどの質問があり、岸先生が回答された上で、議案は賛成多数にて承認されました。教会員の皆さん、新しく牧師を迎える準備をよいものになるように、真剣に考えてください。さつていることを改めて知り、感謝の気持ちでいっぱいになりました。その思いにしっかりと応えられ

るよう、この改修工事が適正に問題なく行われるべく、岸先生をサポートしながら長老会がなすべき責任をしっかりと果たしていきたいと思います。

さて臨時総会でも話に上りました、が、礼拝堂の改修問題については、皆様と松谷先生と共にこれからじっくりと考えていきましょう。

今回改修する牧師館は木造建築

で、次の大規模修繕は20年後位になるかと考えられます。現礼拝堂は鉄筋コンクリートですから配管などをメンテナンスしながらあと20年もたせることは可能でしょう。そして20年後にどういう経堂北教会にしていくのかを、時間をかけながらともに考えていきましょう。

「20年後」、この礼拝堂で共に礼拝を守っている人もいれば、天の國から、共に礼拝している人もいるでしょう。そちらのほうが多いかもしれません。でも20年後、さらにその後、この経堂の地でどのような形で神様を賛美する場を持つのか、神様の導きを信じて共に考えていきましょう。（大友太郎）

長老のファイル

6月の長老会はコロナ前と同様、昼食後から行われました。通常の報告の後、定期教会総会、臨時教会総会の記録確定から始まりました。牧師館改修工事は9月上旬から始まります。

6月の行事として、初夏の集い

のプログラムなどの確認、女性用和式トイレ改修のこと、インターネット回線の新設（今まで岸先生個人の回線を利用させていた）、今年度後半の説教を外部の先生方にお願いする予定、对外援助に関する件、司式・礼拝担当番の確認、などを話し合いました。

財務からの5月末までの報告で

は、出席者は増えてきているのに、前年度と比べると礼拝献金（席上）が減っており、ほとんどの項目で前年度を下回っているそうです。このままだと総会で可決された予算を達成するのが難しくなりそうです。もちろん無理にとは言えませんがご協力をお願いします。とりあえずは夏期献金です。会員の高齢化に伴い、ボーナスのない

生活の方も多く、そうでなくとも物価高騰で色々大変だと思いますが、できる範囲でお願いしたいのです。よろしくお願ひします。



私は今年度もバザーの係になりました。今年こそバザーの開催復活を、と思っておりましたが、いまだにコーヒーハワーも再開できず、牧師館の改修工事もあり難しそうです。6月中には委員会も開く予定で、7月に長老会にはかる予定ですが、今年もミニバザーになります。外部献金の目的もあり、少しでも売り上げたいところです。良いお考えがありましたら、ぜひ教えてください。また、少ない人数でやっていますので、委員としてでなくても当日のお手伝いもお申し出ください。よろしくお願いいたします。（志磨恭子）





個人消息



5月の終わりに東京教区総会が富士見町教会で開催されました。教会を会場とするのは5年振りのことです。240の教会・伝道所から350人の議員が出席して、2日間の協議がなされました。

教区総会の重要な議事は選挙です。今回は、三役選挙、常置委員半数改選、教団総会議員選挙と、選挙が続きました。選挙の合間に議事が進められたといつてもよい

掲示板



- 栗平教会就任式 7月21日(日)午後3:00
- 西南支区教師会 7月22日(月)午後6:30
於 代々木上原教会
- 聖靈降臨節第11主日礼拝
7月28日(日)午前10:15
説教 渡邊義彦東京教区総会議長
(柿ノ木坂教会)

編集後記



△旧約で好きな聖句は「あなたの道を主に任せよ。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる」(詩編37:5)。行き詰った時にも力が湧いてくる言葉です。(酒井)

「栄光」2024年7月号
日本基督教団 経堂北教会
〒156-0051 東京都世田谷区宮坂3-21-11
電話: 03-3428-5029 / FAX: 03-3428-5038
牧師: 岸 俊彦
編集: 栄光編集委員会
Email: kyonon@nifty.com
HP: <http://kyodokita.life.coocan.jp>

でしょ。既に報告済みですが、渡邊義彦議長(柿ノ木坂教会)、伊藤英志副議長(三軒茶屋教会)、遠藤忠書記(むさし小山教会)が再選されました。本来任期は2年ですが、今回は任期1年となりました。コロナ禍による任期延長によって、2年毎の教団総会議員選挙と三役選挙が重なったためです。今後それを避けるための対策です。

常置委員は教職5人、信徒5人を選挙したのですが、それぞれ3人ずつ新しい常置委員が選ばれま

した。私も退任となり、世代交代が進みました。

たとき、初めて出席しました。教団紛争のため、それまで20年間未開催でした。両国駅近くの公共施設で行われた総会は大荒れでした。ヤジ、ちょっとした乱闘…。

第1選挙で、大友太郎長老が初めて教団総会議員に選出されました。10月に行われる教団総会で議論の輪に加わるものと期待しています。第2選挙は投票のみで総会は時間切れとなつてしましました。結果はまだ知られていません。

私は建議請願審査委員会委員長を最後に、13年間の教区の責任を終えました。(岸 俊彦)